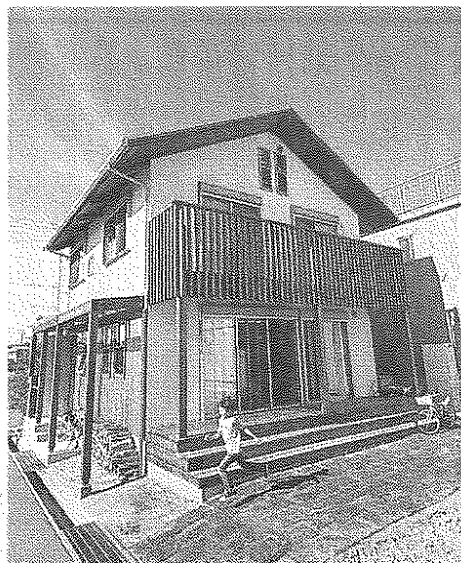


↑のこだわり

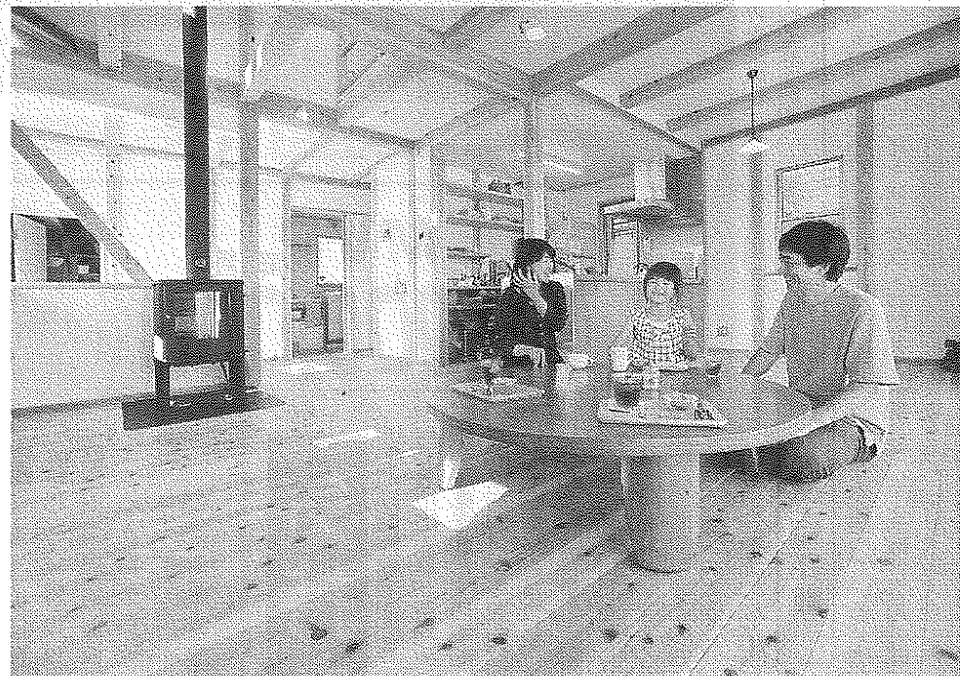
地域材に抱かれて



■林業支援の思いも
木村さんは県北部の但馬地方出身。木工が趣味で「木

のある板張り。
「居心地が良く、落ち着きますね」。ほのかな木の香りに包まれたリビングで、木村さん夫妻はこう話す。使用木材の9割は同県西部の宍粟市産の杉材。手で床をなでると、杉特有の柔らかさが伝わってくる。

①外壁の一部にも地域材が使用されている
②木材そのままの柱や、節のある床。木の空間は安らぎを感じさせる



調湿優れ、害虫にも耐性

■念願「木の家」
木村さん方は妻と小学生の長女の3人家族。新居は大阪や神戸への通勤圏にあり、敷地44・2坪(146平方メートル)、延べ床面積31・3坪(103平方メートル)の2階建て。柱や梁は木材をそのまま見せており、床も節

兵庫・三田 木村さん宅

の「家」は念願だった。「林業支援のためにも地域材を使いたい」との思いもあり、兵庫県の工務店など7社で作る「ひょうご木のすまい協議会」(同県西宮市)に

03年7月設立の同協議会
は、宍粟市の製材業者と提携して産直ルートを確認。同市の山の多くを占める杉材を中心に、約60軒を手が

■材料費5割増

一方、杉は反りが生じやすいなど扱いが難しく、高

けた。三渡啓介会長は「気候や風土に合った地域材は、室内の湿気を快適に保つ『調湿作用』や害虫への耐性に優れ、長持ちする」とメリットを強調する。

木村さんの場合、土地代は1200万円。建物はキッチンやウッドデッキを含め2500万円。うち木材代は480万円を占める。建坪を小さめにしたが、当初の目安だった3000万円をオーバーした。

■県が特別融資

県産材50%以上の家を対象に「利率2・0%固定・25年返済」で上限2000万円の融資が受けられる。これを利用することで、返済額が銀行ローンより約300万円少なくなる計算だ。

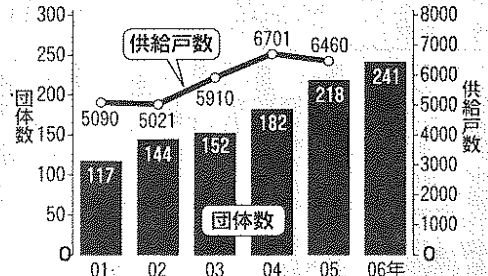
木村さんは「使いこんでこそ『木の良さ』が分かってくるでしょう。こまめに手入れもして、長く住み続けたい」と話している。

環境保護や安全・安心をキーワードに地域材を使って家を建てる、いわば「木の地産地消」を手がけるグループが各地で生まれている。
国産材の需要が増えれば、林業が活発になり、山を荒廃から守ることができ、自治体も国産材の利用促進に力を入れている。林野庁によると、地域材の家への助成制度が36道府県(06年7月時点)にある。

助成、36道府県で

木村さんが利用した兵庫の低利子融資のほか、▽県産材の柱を1戸当たり最高100本提供(滋賀)▽乾燥紀州材1立方メートルにつき2万円(和歌山、上限20万円)など。これとは別に83市町村が独自制度を持つ。また、間接的に支援する場合も多いので、地元自治体に問い合わせるといい。
山林所有者から工務店までが一体で、家づくりに取り組むグループは06年で全国に241。5年間で倍増した。

「家づくり」グループ数と供給戸数の推移 林野庁調べ



■地域グループの情報が分かるサイト

顔の見える木材での家づくりデータベース <http://iezukuridb.howtec.or.jp/>
NPO法人緑の列島ネットワーク <http://www.green-arch.or.jp/>
職人がつくる木の家ネット <http://kino-ie.net/index.php>